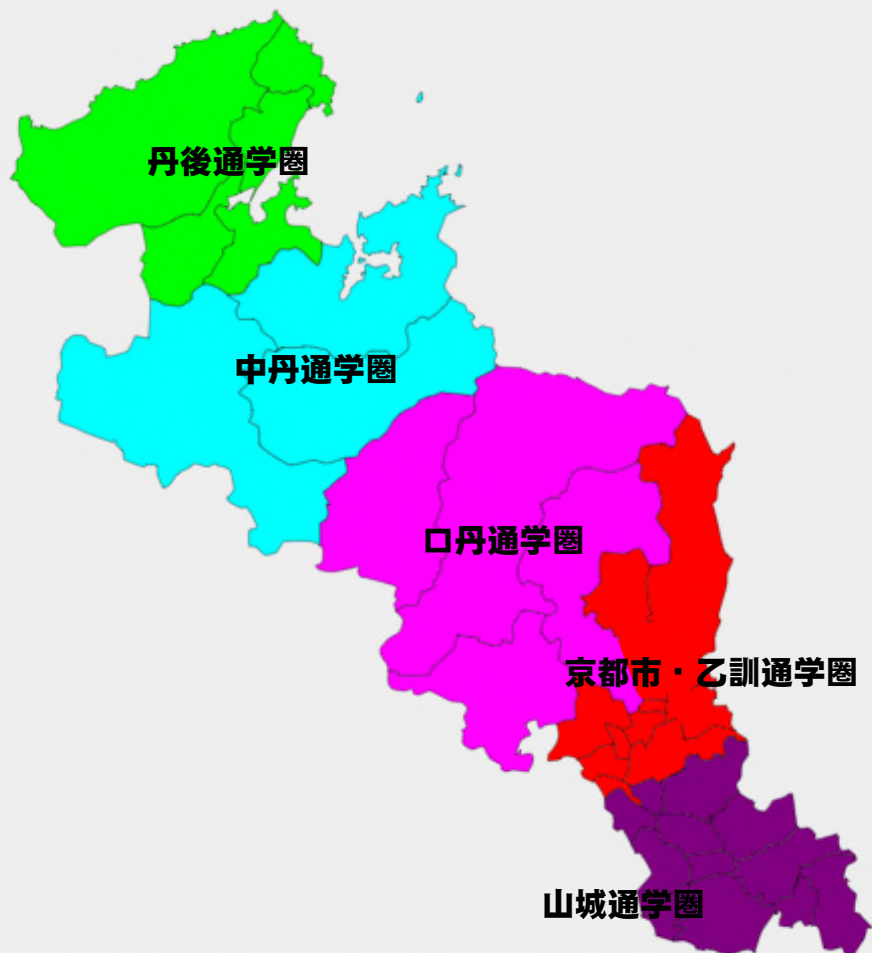


京都府が目指す学びの保障

「WITHコロナ」の学びを力強く保障し、
「AFTERコロナ」を見越した学びを諦めない

京都府教育委員会教育長
橋本 幸三

新型コロナウイルス感染症に関連した臨時休業の状況



3月 3日 国の休業要請を受け、全校一斉休業

4月 8日 学校再開

4月13日 京都市域での感染経路不明者の増加を踏まえ、
口丹通学圏以南の府立学校休業

4月16日 緊急事態宣言全国に拡大（特定警戒地域）

4月21日 京都府の緊急事態措置を受け府内全域で休業

5月21日 京都府の緊急事態宣言解除

5月25日 中丹通学圏以北の特支学校を除く府立学校再開

6月 1日 府内全域の府立学校再開

臨時休業中・学校再開後において、
「学びの保障」が重要であることは論を待たない。

そして、ここでの「学び」は、様々な制約を抱えながらも最大限、
新学習指導要領が目指す、
「豊かな学び」

(知識・技能の習得のみならず、思考力・判断力・表現力等や学びに向かう力・人間性等も育成)
を保障できるようにすることが教育委員会の使命。

「WITHコロナ」の学びを力強く保障し、
「AFTERコロナ」を見越した学びを諦めない。

- ・小中学生向け家庭学習用教材
京都府教育委員会からの挑戦状
- ・ICT環境整備
クラウドサービスのアカウントを府内全児童生徒（小・中・高・特支）に配付・活用
GIGAスクール構想実現に向け市町支援を展開
- ・特別支援学校生向け家庭学習用教材
まなびのバイキング
- ・体力保持のための家庭での運動機会の創出
体育・保健体育学習コンテンツ～うちでも体を動かそう～
- ・子どもの学びと育ちを支える家庭を支援
府立図書館による読書を通じた家庭学習支援

家庭学習用教材「京都府教育委員会からの挑戦状」

長期休業中の小中学生に向けた
家庭学習用教材として公開

http://www.kyoto-be.ne.jp/gakkyou/cms/?page_id=220

教科の学習が、普段の生活や
将来の生活と、どのようにつながるのか

**正解がひとつではない問いに
子どもたちが挑戦**

**臨時休業中であっても、
新学習指導要領の目指す学びを
諦めない**

きょうとふきょういくいいんかい
ちょうせんじょう
京都府教育委員会からの挑戦状



～京都府教育委員会からの挑戦状とは？～

このページには、皆さんへの多くの挑戦がつまっています。これまで長期休業中に皆さんがあまり取り組んだことのない課題を用意しました。知っている知識を使い、わからないことは学び、最後はあなた自身の考えをまとめる。そのようなことを通して、学ぶことの大切さを感じてもらえれば、と願っています。

子どもの学習の進度に合わせた4段階設定

- ★ 苦手な人や基礎から学びたい人
- ★★ 普通の授業をイメージ
- ★★★ 単元の目標到達点
- ★★★★ 課題解決型

※挑戦する順番などは、子どもたちの興味・関心、学習の進度に応じて自由に選べる

★★★★の課題例

算数（小5）単元：体積

同じ送料で、より多くの荷物を運べる箱を知りたい。

社会（小6）単元：日本国憲法と政治のしくみ

日本国憲法、政治のしくみを学習して、例えば学校で物事を決めて実行するときどのようなことに気をつける必要があると思いますか？

理科（中3）単元：生命の連続性

人に羽を生やすことはできるのか？人はその羽で飛べるのだろうか？

ワークシートの提供

子どもたちの学びを深めるためのガイドとしてワークシートを準備

挑戦用シート（課題に取り組む際に使用）

振り返りシート（課題終了後の振り返りに使用）

子どもたちをはぐくむ視点

★★★★の目指すもの

- ・子どもたち自身が持っている知識や★★★☆☆までの学びを活用して、いわゆる最適解を導き出したり、自らの力で振り返って学び直したりできる
⇒ 学習の進度に応じて力を付けられる課題設定と配置

「挑戦状」が目指す子ども像

- ・自らの力で知識や技能を学び、それを活用できる
- ・自らの体験を通して学び方を体得する
- ・自ら学びの価値を見出し「学びに向かう力」を涵養する

学校現場を支援する視点

★★★★の目指すもの

- ・子どもたちの学びの深さに差があっても、それぞれの深さに応じて思考し、解答できる課題を出題する
⇒ すべての子ども達が諦めず取組める課題づくり

「挑戦状」の目指すもの

- ・長期休業中であっても質の高い学びが提供できるもの
- ・AFTERコロナにも通用する学びの形が提示できるもの
- ・それぞれの学校の実情に応じてカスタマイズも可能なもの

<現状>

- ・休校中に「挑戦状」を自校に合った形にカスタマイズして活用する学校の出現

<教員の声>

「挑戦状」の課題は、「自ら学ぶ方法」を学習する手助けになるのではないだろうか？と感じ（中略）、**今までの教え込まれる学習と明らかに違う**ような印象です。**本当に社会に出たときの課題解決を考えることにつながる**気がします。

<生徒の声（抜粋）>

- ・**応用しながら考えていくのは面白かった**。課題学習を通して具体的に自分で考えまとめるという難しさや大切さがよく分かった。
- ・色々な視点から考えると、**疑問がたくさん出てきました**。
- ・教科書や資料集、インターネットを使って**調べながら自分でまとめると、どんどん理解できた**。

⇒子どもたちが学びの価値や意義を再確認することにつながっている

<今後の展開>

- ・学校再開後も活用できる「挑戦状」を目指してコンテンツを増加させていく
⇒ 課題解決型学習を軸に、子どもたちの学びをサポートしていく
- ・休校してたせいで…ではなく、休校していたけれど…と言われるような学びを創造したい
⇒ すべての子どもたちが「学びの意義」を感じ続けられる学びを提供する

**教育委員会の挑戦が、
学校現場、子どもたちの挑戦につながり、
子どもたちの「幸せに生きる力」をはぐくみます。**

☆ 学校種を問わず、教育活動をサポート ☆

☆ 頑張る学校現場を全力で支援 ☆

☆ 遠隔教育を可能にするICT環境の提供 ☆

① Office 365 アカウントの発行

- ・全校種の教職員と児童生徒に発行
- ・企業と連携したアカウント発行
- ・クラウドサービスを活用し、双方向を可能に

③ 府立学校でのYouTubeを活用した動画配信


② 共同仕様書の作成

(GIGAスクール構想による端末調達)

- ・京都府の共同調達→共同仕様書の策定
- ・一刻も早い機器調達へ
- ・京都府独自のパッケージ
- ・府内の市町教委との連携・支援

Office 365 アカウントの発行



- ・クラウドサービスを活用し、双方向を可能に
- ・全校種の教職員と児童生徒に発行
- ・企業と連携したアカウント発行 

【Office 365 アカウント発行数】

	児童・生徒	教職員
府立学校	45,400	6,620
市町立学校	118,600	29,300
合計	164,000	35,920



教材・課題・宿題の作成
遠隔授業、小テスト実施
朝会・ホームルームなど

課題・宿題の提出
遠隔授業、小テスト受験
朝会・ホームルーム参加
質問・個別相談など

★ Teams : テレビ会議、オンライン授業、
課題配付提出、データ共有、
協働学習、面談

★ Forms : 小テスト、アンケート

★ OneDrive : オンラインストレージ

★アカウント付与で広がる可能性★

I C T環境の整備☆Office365の利用①

◎ オンライン授業

◎ 児童・生徒への課題の配信、回収

- 全校集会の配信、学級会活動やホーム・ルーム活動の実施
- 双方向による個別・集団による学習指導の実施 他

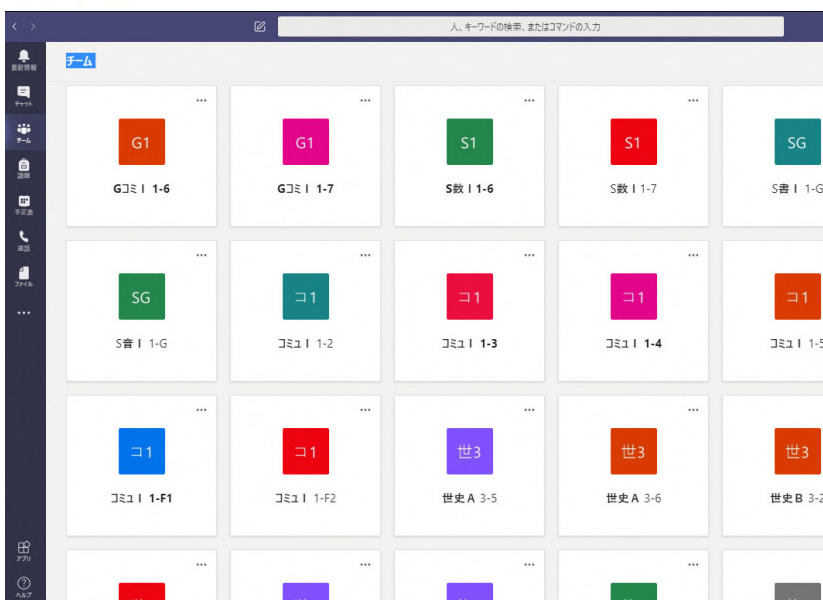


京都府立鳥羽高等学校

Kyoto Prefectural Toba High School



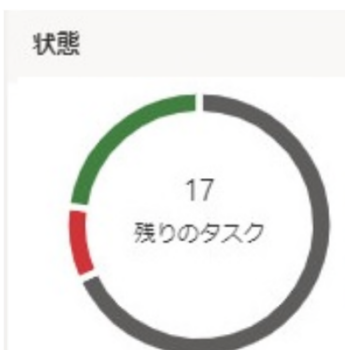
授業講座ごとにチームを作成！



課題作成・配信・提出



TEAMS



オンラインで課題の進捗状況を確認

I C T環境の整備☆Office365の利用②

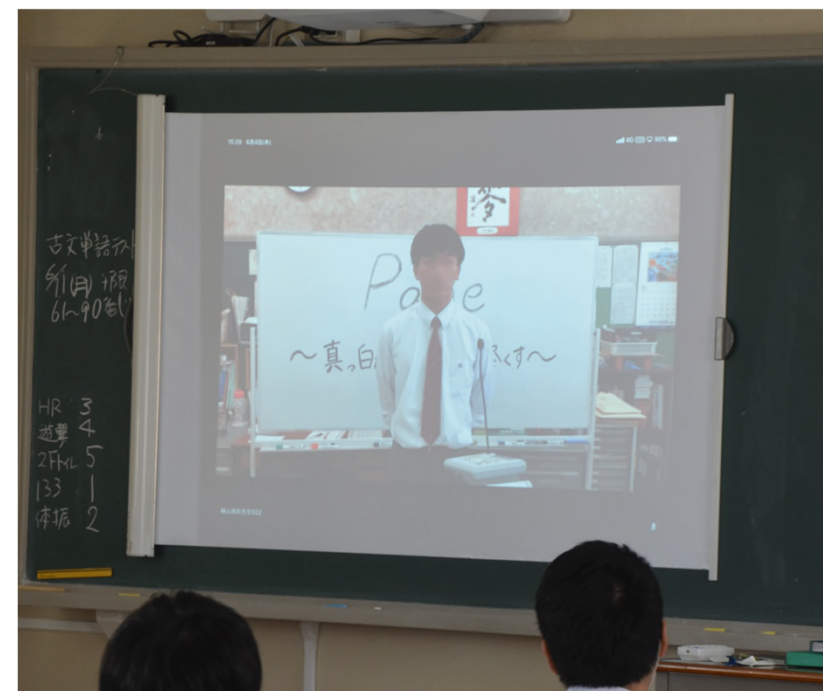
- オンライン授業
- 児童・生徒への課題の配信、回収
- ◎ 全校集会の配信、学級会活動やホーム・ルーム活動の実施
- 双方向による個別・集団による学習指導の実施 他

遠隔システムを活用した生徒会総会



オンラインで
配信

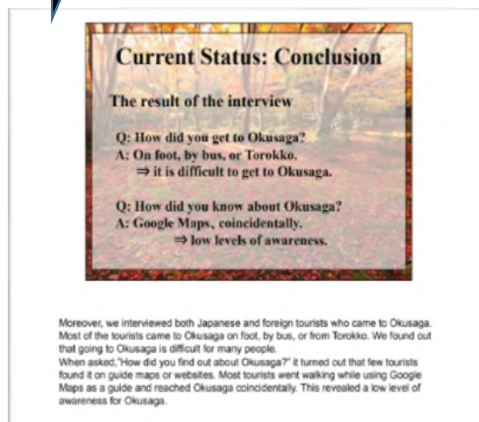
京都府立峰山高等学校



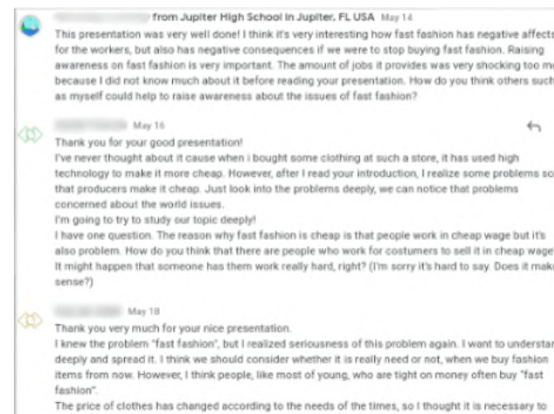
◎ 嵯峨野SDGs グローバルプレゼンテーション～課題研究の成果を英語で発表・質疑応答～

臨時休業中に各生徒が発表資料を作成。発表会を実施できないためウェブ上で公開

▶ アメリカのパートナー校生徒との数多くの質疑応答により異文化コミュニケーションの場となった



発表用スライド及び英語発表原稿を閲覧対象者限定で公開



閲覧者は質問やコメントを記入し、発表者は後日記載のあった全ての質問に回答

◎ オンライン個人面談



全学年で学級担任と生徒との個人面談をオンラインで実施

まなびの
バイキング

～見てみよう！ やってみよう!!～



府立特別支援学校教員が作成した動画をYouTubeに掲載

http://www.kyoto-be.ne.jp/tokubetsu/cms/?page_id=96



家庭で子どもが教科、自立活動、生活単元活動等を学習できる内容を各5分程度に編集



夏野菜の育て方を紹介



身近なもので形を理解

現在約90の動画
視聴回数
計約20,000回

一般の方も視聴可能
今後学校内の授業等でも活用



C Gの動物を探しながら
学校内を探検

体育・保健体育学習コンテンツ～うちでも体を動かそう～

休業期間中の体力保持のために運動機会を創出 http://www.kyoto-be.ne.jp/hotai/cms/?page_id=27

中学生・高校生向け動画「自宅でできるサーキットトレーニング」※京都トレーニングセンター監修



1人でできる運動遊びの例

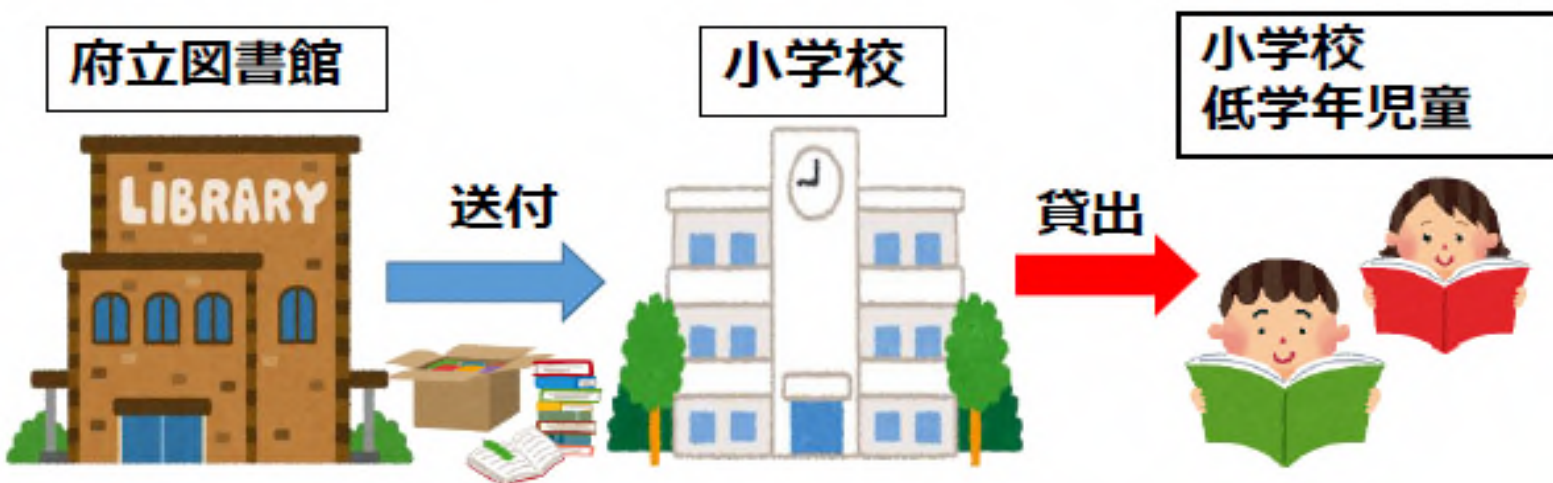
【注意】
○力が足りないように、安全な場所でやりましょう。
○まわりとのせっしょくをさげ、できるだけ1人で運動しましょう。
○運動した後は、手洗いやうがいをしましょう。

<p>04 運動 跳躍 室内 【回転ジャンプ】</p> <p>1. 実施方法 ○ジャンプして回転し、たどり着いたところまで歩きます。 【準備】運動シューズ</p> <p>2. 必要物品 なし</p> <p>3. 運動遊びの発展性 ○1回転 1回転 ○2回転 2回転 ○3回転 3回転 ○4回転 4回転 ○5回転 5回転 ○6回転 6回転 ○7回転 7回転 ○8回転 8回転 ○9回転 9回転 ○10回転 10回転</p> <p>4. 動きのポイント及び留意点 ○足を高く上げ、ジャンプするときは、足裏で地面を蹴ります。 ○足を高く上げると、ジャンプの高さが変わります。</p>	<p>05 運動 跳躍 室内 【〇〇滑り】</p> <p>1. 実施方法 ○足を伸ばし、ラインに沿って滑ります。 ○滑り終わったら、立ち上がり、滑ります。 【準備】運動シューズ</p> <p>2. 必要物品 ○おもちゃの滑り台</p> <p>3. 運動遊びの発展性 ○滑り台 ○滑り台 ○滑り台 ○滑り台 ○滑り台 ○滑り台 ○滑り台 ○滑り台 ○滑り台 ○滑り台</p> <p>4. 動きのポイント及び留意点 ○滑り台を滑るときは、滑り台の滑り面に足を乗せ、滑ります。 ○滑り台を滑るときは、滑り台の滑り面に足を乗せ、滑ります。</p>	<p>06 運動 歩行 室内 【くも歩き】</p> <p>1. 実施方法 ○手を伸ばし、くもを歩きます。 ○くもを歩いたら、立ち上がり、くもを歩きます。 【準備】運動シューズ</p> <p>2. 必要物品 なし</p> <p>3. 運動遊びの発展性 ○くも歩き ○くも歩き ○くも歩き ○くも歩き ○くも歩き ○くも歩き ○くも歩き ○くも歩き ○くも歩き ○くも歩き</p> <p>4. 動きのポイント及び留意点 ○手を伸ばし、くもを歩きます。 ○くもを歩いたら、立ち上がり、くもを歩きます。</p>
--	---	---



小学生低学年向け「運動遊びガイドブック」 小学生向け動画「まゆまる体操」

- ・低学年児童が読書を楽しむための図書を府内の全小学校（京都市を除く）に配布することにより、本の楽しさを早い段階から体験するとともに、自習に不慣れな児童が多い低学年の家庭学習を支援
- ・家族とともに過ごす時間が増えた家庭で、読み聞かせなどに活用



臨時休業中・再開後の学びの保障に当たっては、

文部科学省補正予算等を活用し、

京都府として必要な予算を確保

補正予算総額（教育委員会関係）

→10億4,500万円（うち文部科学省補正予算の活用が1億8,253万円）

- 長期間の学校臨時休業によって、学習への影響や心理的な不安が増大する中、子どもたちが家庭等で安心して学習できる環境等を整備

【主な事業】

- 自宅学習のための環境整備等
 - ・ 高校におけるグループウェアアカウントの無償配付、オンライン学習のための機器整備
 - ・ 小学校低学年児童全員に図書を配付
- 児童生徒等の心のケア
 - ・ スクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザー（SSW）を全ての小・中・高・特支に週1回以上配置
- 学校再開に向けた準備
 - ・ 過密化防止のために特別支援学校スクールバスを運行増便
 - ・ 府立高校の全普通教室に電子黒板等を整備
 - ・ 小・中の学習支援員の配置時間を拡充

京都府新型コロナウイルス感染症対策応援基金

医療従事者、子ども等への支援を目的とした **基金を創設**

募集HP



【寄附金を活用した支援】

- ▶ 医療又は療養の現場で働く方々への支援
- ▶ 新型コロナウイルス感染症の影響を受けている子どもたちとその家庭への支援
- ▶ その他の新型コロナウイルス感染症対策に関する支援



京都府のHP(<http://www.pref.kyoto.jp/somucho/news/coronakifukin.html>)で募集中！

補正予算総額（教育委員会関係）

→17億2,700万円（うち文部科学省補正予算の活用が5億円）

- 学校の臨時休業からの再開にあたり、万全な感染症防止対策と児童生徒の学習を速やかに実施するため、人的・物的両面から教育活動を強化

【主な事業】

- 学校再開のための人的体制の整備
 - ・ 小6・中3の少人数編成のための教員加配
 - ・ スクール・サポート・スタッフを全ての小・中・高・特支に配置
 - ・ 学習支援や身近な相談に対応する「心の居場所サポーター」を全ての小・中学校に配置
- 学校再開のための物的体制の整備
 - ・ 夏季授業期間における教育環境対策の実施（特支学校スクールバスの夏季授業時運行等）
 - ・ 学校の裁量による学習保障・感染症対策の実施
- 部活動全国大会に代わる府大会開催支援（体育系・文化系）

※学生等の人材確保について、京都府内の大学と連携したスキームを構築中。



保護者のみなさまへ

京都府内の学校については、内閣総理大臣の要請に基づき、3月初旬から、一部地域では開校していた時期はあったものの、臨時休校としてまいりました。

その後、緊急事態宣言が全国に拡大され、京都府は特に重点的な対策が必要な地域に指定されたことから、府の緊急事態措置を踏まえ、5月6日までを休校期間としてきたところです。

この間、保護者のみなさまには、お仕事との両立の工夫もしていただきながら、子どもたちの心身の健康状態をいねいに見守り、学習や生活習慣の維持に向けて、大変ご尽力をいただきました。深く感謝申し上げます。

5月7日からの学校の再開を心待ちにされていたお子さんや保護者のみなさまも多くいらしたことと思います。

しかし、5月4日に国の緊急事態宣言の期間が延長されたことを受けて、府の緊急事態措置も延長されました。

府立学校については、その期間と同じ5月**31**日まで臨時休校を延長し、府内の多くの小・中学校でも同様の対応がとられています。

現在、府内の新規感染者数は、府民のみなさまの自粛等のご協力により、一定抑えられています。

しかし、この先の確実な見通しが立たない中、専門家からは、地域によっては自粛等の行動変容の必要な時期が長期にわたる可能性も指摘されています。

そうした中、国の「学校における新型コロナウイルス感染症の対策に関する懇談会」から、今後の学校教育活動に関する提言が出され、これを踏まえた通知が5月1日付で文部科学省から出されました。

この中では、「学校における感染リスクをゼロにするという前提に立つ限り、学校に子どもが通うことは困難であり、このような状態が長期間続けば、子どもの学びの保障や心身の健康などに関して深刻な問題が生じる」ことや、「学校における感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減しつつ段階的に実施可能な教育活動を開始し、その評価をしながら再開に向けての取組を進めていくという考えが重要である」こと、さらに、「地域や生活圏によって感染の状況

は異なることから、一律ではなく地域の状況を踏まえて、段階的に学校教育活動を開始していくことも可能である」ことが示されています。

また、臨時休校を継続する地域においても、感染症対策を徹底した上で分散登校日を設定するなど、段階的に学校教育活動を再開していくことが重要だとされ、「学校の全部を休業とした上で任意の登校日を設ける方法や学校の一部を休業とした上で授業日としての登校日を設ける方法が考えられる」とされています。

感染リスクを抑えながら学校教育活動を再開していくことは、決して簡単なことではありません。しかし、京都府教育委員会といたしましては、この通知の趣旨を踏まえ、感染状況に応じて、学校教育活動の段階的な再開を目指してまいります。

5月中旬には、府内の感染状況や医療供給体制の状況等を勘案し、府の緊急事態措置の見直しが検討される予定です。それに合わせて、例えば感染者が全く出ていない、又は、長期間出ていない地域の府立学校については、周辺地域の状況も考慮した上で、段階的に学校を再開したいと考えています。

また、休校中でも、人数や時間を絞り感染リスクに十分配慮した方法で分散登校を実施するなど、実施可能な取り組みから進めていきたいと考えています。今後、学校の児童生徒や教員が感染したり、地域でクラスターが発生するなど、感染リスクの高まりが懸念される場合には、再度の休校を含め、速やかな対応に努めてまいります。

新型コロナウイルス感染症が一日も早く収束を迎え、再び平穏な学校生活に戻り、学び舎に子どもたちの笑顔があふれ元気な声が響き渡る日が訪れることを、何よりも願っております。

そのために、京都府教育委員会においては、小・中学校を所管する市町(組合)教育委員会とも十分連携を図りながら、様々な状況の変化に柔軟に対応し、安全性の確保と学びの保障や心身の健康に向けた取り組みを進めてまいります。みなさまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和2年5月8日 京都府教育委員会教育長 橋本 幸三

新型コロナウイルス感染症は、終息の見通しが立たず、第2波に備え、行動変容の必要な時期が長期にわたる可能性も指摘されています。

感染リスクを抑えながら、学校教育活動を実施していくことは、決して簡単なことではありません。

しかし、これからの日本を支える子どもたちを育むため、文部科学省や市町教育委員会と密接な連携を図りながら、子どもたちの安全確保や心身の健康保持はもちろんのこと、こうした状況だからこそ、「WITHコロナ」の学びを力強く保障し、「AFTERコロナ」を見越した学びを諦めることなく、知恵を絞り、全力で取り組んでまいります。

御視聴ありがとうございました